

令和7年度 第2回薬物療法連携部会

日時：2026年2月25日（水） 15時00分～17時00分

場所：大阪国際がんセンター 1階大講堂

参加者：大阪府健康づくり課2名、大阪府薬務課2名

国指定18施設28名（がんC及び部会長含む）、府指定41施設44名
オブザーバー1施設2名

1. 開会のご挨拶

高木部会長より、今回の部会はこれまでとは異なる内容で進めていきたい旨の挨拶があった。

2. 大阪府からのご挨拶

大阪府健康づくり課 久保田総括主査より、薬物療法を実施する上で薬局との連携が重要であると述べられた。

大阪府薬務課 高田総括主査より、薬物療法の質の向上および地域医療連携の強化には、病院と薬局の協働が不可欠であると述べられた。

3. 多職種交流会の進捗報告

		実施施設 ※薬物療法連携部会発表施設	開催日	参加施設	参加人数	参加職種			
						Dr	Ns	MSW	Ph
STEP1	国指定	大阪国際がんC	9月29日	18施設	57名	16	19	3	19
STEP2	豊能	大阪大学医学部附属病院、市立豊中病院	12月6日	8施設	18名	3	6	2	7
	三島	大阪医科薬科大学病院	2月12日	5施設	5名	0	1	0	4
	北河内	関西医科大学附属病院	2月10日	5施設	19名	4	4	4	7
	中河内	市立東大阪医療C、八尾市立病院	1月14日	6施設	19名	2	6	5	6
	南河内	大阪南医療C	1月21日	6施設	19名	3	7	3	6
	堺	大阪ろうさい病院、堺市立総合医療C、近畿大学病院	1月23日	6施設	16名	4	4	4	4
	泉州	市立岸和田市民病院、和泉市立総合医療C	1月23日	5施設	15名	4	4	1	6
	大阪市	大阪公立大学医学部附属病院、大阪市立総合医療C、大阪赤十字病院、大阪医療C、大阪急性期・総合医療C	2月6日	16施設	45名	11	13	7	14

各医療圏で実施された「irAEについての各施設での取り組み」に関する意見交流会について、上記施設が代表して報告された。

（高木部会長）

国より、今後も継続して多職種交流会を実施する方針が示されている。

3月10日に親会が開催され、本部会内容を報告予定。

4. がん拠点病院からの提案・報告

① 市立吹田市民病院（児玉先生）

Pola+R-CHP療法に関するアンケート調査報告 多施設共同観察研究実施可能性についての予備調査

- ・一次予防投与として初回からペグフィルグラスチムを使用しているかを調査
- ・薬剤師主導の多施設研究は少ない
- ・前向き介入研究の実施ハードルは高いため、まずは観察研究を検討
- ・FN発症の有無からリスク因子の探索が可能ではないか
- ・初回1コースのデータ収集を検討
- ・症例のあった10施設に協力依頼予定

② 済生会千里病院（西塔先生）

他院でICI投与中の患者が自院へ入院した事例報告

- ・点滴抗がん剤治療患者全例に対し薬剤師が指導
- ・掲示板にICI治療中である旨を明記
- ・ICIシールを作成
- ・irAE対応に関する各施設アンケート結果報告

（高木部会長より）

マイナンバーカードでICI治療歴を把握できなかったのか。

③ JCHO 大阪病院（辻川先生）

- ・化学療法患者の待ち時間の有効活用
- ・新規レジメンへの不安軽減を目的としたツール作成の提案
詳細は次回部会で報告予定。

5. 薬物療法連携部会の取り組み

1) アンケート結果報告

①がん薬物療法体制充実加算：増加傾向

②大阪版トレーシングレポート：HP掲載および大阪TRでの報告ともに増加傾向

③令和7年度診療報酬改定

- ・CSTD加算（150点）新設
 - 現状は調製時より投与時の使用が多い
 - 新設加算では調製時使用が必須
- ・外来化学療法における皮下注製剤加算新設
 - 現在、加算算定がなくても外来ケモ室で投与している施設が多い

2) トレーシングレポート等について

①がん薬物療法（ICI）

- ・がん薬物療法（全般）の書式と同様
- ・ICI TR にプレドニゾロン、コートリル処方漏れ防止のため項目追加

【問題点】

- ・症状をチェックして、疑いのある irAE を出す方がいいのではないか
- ・項目が多数あり、報告制度が下がり、負担が多いのではないか
- ・受診勧奨のタイミングを明確化すべき

今後は意見をいただいた施設を中心に改訂を進める方針。

②ICI お薬手帳用シール

- ・大阪医科薬科大学病院：QR コードで治療日誌へリンク
- ・関西電力病院：専用シールは未作成だがお薬手帳へ明記
- ・大阪国際がんセンター：近隣保険薬局と共同運用

部会として共通シール作成を検討

【検討ポイント】

- ・注意喚起として赤色使用
- ・「大阪」表記
- ・やくにゃん（部会公認キャラクター案）使用

堺市立総合医療センター（小川先生）

- ・貼付場所、開始日・終了日の記載方法の検討が必要
- ・TR 含め運用面の整理が必要

（高木部会長）

日付記載は病院側か。がんセンターでは日付ではなくチェック式としている。

若草第一病院（加藤先生）

- ・高齢者では手帳忘れも多く、シール貼付できないケースあり
- ・マイナンバー活用も一案だが、未所持者もいる

（高木部会長）

- ・貼付は病院または保険薬局
- ・薬務課の協力も得たい
- ・もずやん使用は薬務課確認が必要

5. その他・連絡事項

令和8年度 第1回 薬物療法連携部会 2026年7月6日（月）15:00 開始予定

- ・大阪版がん薬物療法（ICI）トレーシングレポート
- ・大阪版 ICI お薬手帳用シール完成